〈中山眼科〉
渡邊 敏之先生

◆所属
岡山大学病院形成再建外科
◆資格
日本形成外科学会専門医・日本形成外科学会
皮膚腫瘍外科分野指導医・日本創傷外科学会
専門医再建・マイクロサージャリー分野指導医
◆所属学会
日本形成外科学会学会・日本美容外科学会・
創傷外科学会ほか

## 上まぶたが下がって目が開けづらい、視野が狭くなった…

# 『眼瞼下垂（がんけんかすい）』の治療

保険適応

「まぶたが下がってきて物が見えづらい」「頭痛や肩こりに悩んでいる」―。これらの症状は、「眼瞼下垂」が原因しているのかも。そこで、「中山眼科」の渡邊敏之先生に、眼瞼下垂の原因や症状、治療などについて聞きました。

## 主な要因は加齢。まぶたを上げる筋肉が弱って発症 肩こり、頭痛、慢性疲労の原因になっていることも

「眼瞼下垂」は、文字通り「まぶた」が「下がる」病気です。何らかの要因で、上まぶたを引き上げる筋肉（上眼瞼挙筋）の力が弱くなったり、それに付着する上眼挙筋腱膜が薄くなって伸びてしまったり、はがれたりして（イラスト＝下）、症状が現れます。上まぶたと瞳孔の関係から軽度、中等度、強度に分かれます（イラスト＝左）。

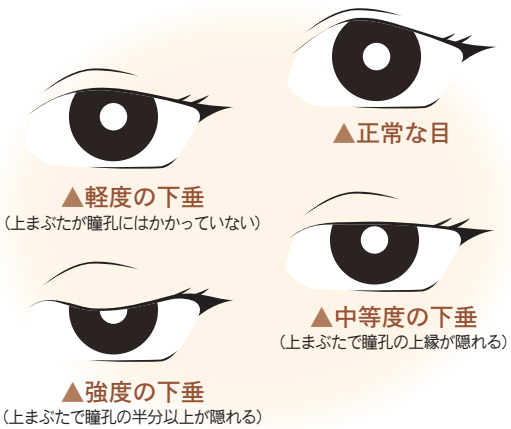
主な症状は視界が狭くなり、物が見えにくくなること。そのほか、肩こりや頭痛、眼精疲労、おでこのシワが増えた…など、右のチェックリストに思い当たる点があれば眼瞼下垂が疑われます。

### コンタクト長期使用で若年で起こるケースも

「眼瞼下垂」には、先天性のものと後天性のものがあります。

先天性のものは、生まれた時からまぶたが下がっていて、目を開けることが困難な状態です。視機能が異常な場合を除き、赤ちゃんのうちに手術を行うのはまれで、症状の程度を見ながら適切な時に治療を行います。

後天性は、大人になってからなるもの。その原因の多くは加齢です（加齢性眼瞼下垂）。コンタクトレンズを長期間使用している人は、若年でも起こるケースがあります。




### 眼瞼下垂 チェックリスト

- □頭痛がする
- □慢性の肩こりがある
- □おでこのシワが増えた（眉毛の位置があがった）
- □視力が上がらない、視力が下がった
- □夕方になると、まぶたが下がってくる
- □コンタクトレンズを使っている
- □逆まつげ、かすみや痛みがある

※チェックした項目が多いほど眼瞼下垂が疑われます

## 日帰り手術が可能！ 視野が広がると生活の質（QOL）も向上

眼瞼下垂の治療は、まぶたを引き上げる筋肉（上眼瞼挙筋）を修復する手術が中心です。所要時間は治療内容にもよりますが両目で1時間程度。局所麻酔で行い、日帰り手術が可能です。

手術は、二重まぶたのラインに沿って皮膚を切開し、上眼瞼挙筋の修復を行います（一重まぶたの方は、手術後二重まぶたになります）。

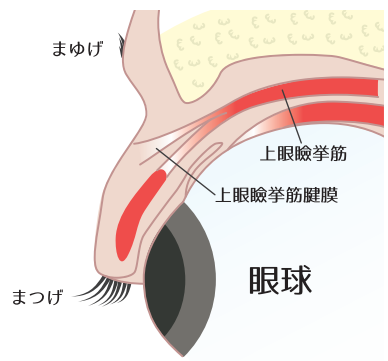
### 余剰皮膚を切除するだけで症状が改善する場合も

上まぶたの皮膚が余っている方については、余剰皮膚を切除してあげるだけでも、「肩がこる」「頭痛がする」「疲れやすい」「不眠」などの症状が改善することがあります。

加齢性眼瞼下垂の場合は、余剰皮膚を切除するほかに、上眼瞼挙筋と付着部の瞼板を結び直す「挙筋前転法」という術法を用います。この手術によって、上まぶたが上がりやすくなり、見えにくかった視界が広がって、生活の質（QOL）も向上します。

傷について心配する方もいらっしゃいますが、傷跡が目立たないように二重のラインに沿って行いますので、2、3カ月もたてば、ほとんど分からなくなります。

▲傷跡が目立たないよう、二重のラインに沿って、手術を行います（イラストはイメージ）




## 眼瞼下垂の手術は保険適応 気になる症状は早めに医師に相談を

まぶたが下がってきて物が見えにくいだけでなく、「頭痛や肩こりに悩んでいる」「疲れやすい」などの不定愁訴（しゅうそ）があり、「不調の原因は、眼瞼下垂かも…」と思った方、一人で悩まず、早めに受診して、医師に相談しましょう。

### 眼科専門医と形成外科専門医によるまぶたの治療

まぶたは重要な器官である眼球を覆っている組織であり、小さな異常・変形でも、何らかの症状につながりやすい部分です。〝機能と整容の両立〟のためには、眼科専門医と形成外科専門医による共同診察が大切です。

なお眼瞼下垂の手術は保険適応です。日帰り手術可能なので、仕事で忙しい方も無理なく受けられますね。

## その他の治療

### 【眼瞼内反】

▲眼瞼内反（逆まつ毛）

「眼瞼内反」とは、いわゆる逆まつ毛のこと。まつ毛が眼球側に向かって生えている状態です（イラスト参照）。まぶたやまつ毛が角膜を刺激することにより、目の違和感・痛み・涙や目やにが出る、角膜潰瘍（かいよう）などを生じます。まつ毛を抜きながら様子を見ることも可能ですが、症状が続く場合は手術が必要。手術でまつ毛を前に立たせることで、症状を改善できます。上まぶたの場合は二重まぶたにすると、まつ毛が立ちます。下まぶたも同様の手術でまつ毛を立たせます。

### 【眼瞼外反】

▲眼瞼外反

まぶたが外にめくれる病気。「あかんべー」をしているような下まぶたになります（イラスト参照）。加齢によるまぶたのたるみや、顔面神経の障害などが原因。目を閉じきれなくなったり涙が正常に流れなくなったりすることで、ドライアイを引き起こします。手術によってたるんだ下まぶたを引き締めることによって、改善します。

### 【眼瞼痙攣（けいれん）】

「眼瞼痙攣」は目を閉じる筋肉〝眼輪筋〟が勝手に収縮・緊張する病気。相対的に目が開きづらくなり、日常生活に支障が出ることもあります。筋肉を弛緩（しかん）させる作用のあるボトックスの局所注射による治療を行います。